

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
34

振興協議会だより

〔発行日〕平成30年12月26日
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕025-765-1600



ジオパーク再認定審査 現地審査を迎えて



10月31日（水）～11月2日（金）の2泊3日の日程で、苗場山麓ジオパーク再認定審査の現地審査が行われました。

31日は栄村を会場とし、協議会としてのこの4年間の事業・活動の報告、部会活動や連携団体の活動報告を行いました。また、ジオサイトの小滝・四ツ廻りの滝と運河跡、2016年に開館した栄村震災復興祈念館「絆」をめぐり、地域の活動とジオパーク活動の結びつきや防災との連携に関する説明を行いました。

1日は津南町を会場とし、ニュー・グリーンピア津南上の谷の展望台、津南小学校、川の展望台、龍ヶ窪から石落としと見玉直売所をめぐり、河岸段丘や苗場溶岩と水の関係、ジオパークを中心に据えた教育プログラムの説明などを行いました。また、当日は首長と審査員との質疑応答も行われ、津南町長、栄村長により政策への位置づけ等が質問に答える形で説明がされました。

2日は「自己評価表」の確認、事務局による事業説明、そして審査員による総評となるフィードバックミーティングが行われました。「自己評価表」の確認では日本のジオパークとして自分たちの活動の認識ができているか、所定の「自己評価表」を使い、審査員とともに一つずつ確認を行いました。

総評では教育活動やガイド・地域活動の活発化に高い評価を受け、地域資源としても河岸段丘は地球の気候変動が説明できる国際的にも価値がある場所であるとの言葉を頂きました。しかしその反面、苗場山麓地域内で行われているそれらの活動の取りまとめやジオパークとして外に発信するプロモーションがまだ不十分なこと、また地質や岩石についての情報が地形等の情報よりも弱いとの評価でした。

今後、日本ジオパーク内での会議を経て、1月18日に再審査の結果が発表される予定です。『ジオパークの再審査は「健康診断」である』と研修や会議などでよく話題になりますが、その言葉通り、今回の再審査は地域を新たに見直す、良いきっかけとなりました。協議会が行っている活動や、地域内の教育機関やガイドの皆さん、地域の皆さんが行っている活動がどのようなものであるのか、報告書をまとめ、現地審査を迎えて、意見を頂く中で自分たちの地域が持っている人的資源・物的資源の再認識ができてきたと感じます。

また、住民の皆さん、ガイドの皆さんのおかげで、今回の現地審査を無事に乗り切ることができました。心から感謝申し上げます。再認定となるか、条件付き再認定となるかはまだわかりませんが、どちらにせよ、その結果がこの地域に良い影響を与えてくれるものと考えます。これからもこの地域をともに盛り上げていきましょう！





苗場山麓ジオパークガイドブック「概要編」完成しました!!

第一期38人のガイドの会が発足して以来、「苗場山麓ジオパーク」の教科書をつくってほしいという声が上がっていました。そこで、4年前から下準備をはじめ、関係する編集委員を委嘱し、2017年9月から本格的にガイドブックの編集に取りかかりました。内容は、地質・地形(ジオ)45ページ、生態(エコ)35ページ、歴史文化(カルチャー)16ページ他の、全117ページの構成で、今年の10月下旬に完成しました。入門編のハンドブックと合わせて、是非活用していただくとともに多くの方々に苗場山麓ジオパークについて知っていただければ幸いです。

なお、現在、ガイドさんが実際に案内するときに使用するガイドブック「実践編」製作に着手したところです。

苗場山麓ジオパークガイドブック「概要編」は津南町農と縄文の体験実習館なじょもんで販売中です。



全国研修会に参加して



ジオパークの研修への参加は初めてでした。1番の収穫は他地域のジオパークに関わる方々と意見交換ができたことです。苗場山麓は1町1村の構成ですが、さらに多くの自治体で構成されるジオパークは連携や意思決定の難しさがあることや、商品開発がなかなか進められていないなど抱える課題は共通しているように感じました。

「地域住民がジオパーク活動に積極的にかかわり、持続可能な地域を作っていくこと」といった、たくさんのキーワードがあるなかで、まずは地域に暮らしている人々が自らの地域の価値を認識し、その価値を共有することが大事なことであり、住民が自ら地域活動をすることが、地域の力になりボトムアップにつながるように感じました。

(津南町地域振興課商工観光班 相沢)



中部ブロック伊豆半島大会

12月1日・2日に第6回日本ジオパーク中部ブロック伊豆半島大会が開催されました。

1日は静岡県三島市の巡検とワークショップがありました。三島は湧水が街の到るところを流れており、多くの文豪が街や人の様子を作品に残したそうです。今回は「ジオパークにおける文化・文学の活用」がテーマで、文学をジオパークに取り入れる方法について議論し、ワークショップでは実際にジオパークと文学を繋げるポスターを作成しました。

2日は「ジオパークの最新動向」と「伊豆半島の地質」の研修、また中部ブロックの事務局会議が開催されました。事務局会議では今後の中部ブロック会議の位置づけや目的をどうしていくか議論がなされました。

「ジオパークの最新動向」では、普段なかなか知ることの出来ない海外のジオパークの取り組みについて話を聞くことができ、その中で日本のジオパークがプレート境界に位置し、大地が頻繁に動く「変動体のジオパーク」としてどのように活動していくかが、今後課題になっていくと学びました。「伊豆半島の地質」では、様々な種類の地図を見ながら街歩きをしました。標高差が少ない土地でも地形と人の暮らしの関係をふんだんに語れる方法を学びました。苗場山麓では、千曲川沿いや、段丘面で活かせるのではと考えます。



認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

広瀬幸利さん



「これ何で？」ジオガイドになって解ったこと（ガイド No.4 広瀬幸利）

私の好きなと言うか興味の有る風景は今管理人として毎日通っていて、更に自分の卒業した小学校の校舎でもある栄村歴史文化館「こらっせ」から見る津南町上郷と「こらっせ」裏の「峠」からの眺めです。

県境の志久見川が作った河岸段丘ですが、その様子は左右両岸で大きく異なっています。それぞれの集落は志久見川から崖を登った平らな段丘面に点在しているところまでは同じですが、津南町側はその裏が杉の木やブナなどの広葉樹に覆われた段丘崖になっており、その上部には平坦な広々とした農地が広がっています。一方栄村側は一部段丘崖が残っている場所もありますが、段丘崖の多くは崩れてしまい崖ではなく斜面になっている為、その斜面に小さな面積の「段々田んぼ」や「段々畑」を作り農地としていました。現在は耕地整理が進み、平らな比較的大きな田んぼになりましたが、斜面に作るためその畔は高くなっています。

そしてその上は津南町側とは違い千曲川(信濃川)に向かって崩れており、平らな場所は無く「峠」になっています。

今まで「津南町は田んぼが広くて平らで良いな」くらいにしか思っていなかったのですが、ジオガイドになり勉強していくうちに目の前に、ジオを語る時の良い教材が有る事に気付きました。

自分の回りの事もそのままにしておかず、「何で?」、「どうすれば?」などと考えたり調べたりすれば楽しいかもしれません。そしてもう一つの風景それは、前述した「こらっせ」裏の峠に建つ送電線の鉄塔からの眺めです。鉄塔からの眺めと言っても鉄塔に登るわけでは無いですよ。その場所に立つと東に苗場山、そして天気が



左が栄村の段丘、右が津南町の段丘
(北海道地図株式会社寄贈「THE GEOART」より転載)

良く見通しが良い日は西奥に新潟県の上越地方に在る妙高山と火打山が観えるのです。山登りをする人なら多分気になる「日本百名山」の三山を観る事が出来るのです。写真は沈みかけた夕日の中の妙高山と火打山です。

またこの場所からは千曲川沿いに点在する栄村の集落も確認できます。今回はジオサイトの中には出て来ない場所の紹介でしたが、そんな場所がこのジオパーク域にはまだまだたくさんあるのではないのでしょうか。

苗場山麓ジオパーク最高!!



こらっせ裏の峠から眺める風景



新ジオサイトについて

33号でもお伝えした通り、新しくジオサイトを設定しなおしました。新しいジオサイトは29か所。ジオサイト以外では4種類のエコサイト、4種類のカルチャーサイトと7か所のビューポイント、10か所の文化財と分類しています。以下に表を掲載します。

新しい分類では追加もありますが、日本ジオパーク委員会が提示した指針に沿うように、名称の変更や1つのジオサイトだったものを複数に分けることなどを行っています。例えば「苗場山と伊米神社」が新しい分類ではジオサイトの「苗場山の高層湿原」、カルチャーサイトの「苗場山頂の伊米神社」と2つに分類され、「高層湿原」と用語も細かくなっています。これは、私たちがその価値を認識し、保全や保護できる範囲ということでその範囲を設定しなおしたことによるものです。また、名称も、通称ではなく、柱状節理や崩壊地形など地形や地質そのものの普遍的な名前をあらわすものとさせていただきます。これらの変更について疑問や質問がありましたら協議会まで、ご連絡ください。

また、新しいジオサイト29か所のほか、エコサイト・カルチャーサイト・ビューポイントを掲載した苗場山麓ジオパークサイトマップが完成しました。こらっせ・絆・なじよもん・栄村、津南町の役場・観光協会などに置いてありますので、ご希望の方はお立ち寄りください(無料配布)。

分 類	サ イ ト 名
ジ オ 1	安山岩の貫入岩体 山伏山
	中条川上流の崩壊地形
	森宮野原駅最高積雪 7.85m の標柱
	小滝・四ツ廻りの滝と運河跡
	天代の露頭
	中野の無斑晶ガラス質安山岩の露頭
	中津川右岸の河岸段丘
	美穂の露頭
	苗場溶岩流からの湧水地 龍ヶ窪
	苗場溶岩流の柱状節理 石落し
	見玉の古型マンモス臼歯化石の産地
	笹葉峰の大崩壊
	逆巻の川原と猿飛橋
	苗場溶岩流と鳥甲溶岩流の柱状節理 逆巻の大畠
	シシ穴の柱状節理
	鳥甲牧場と湖成層
	前倉橋の結束層
	蛇淵の滝
	布岩山の柱状節理
	大瀬(おぜ)の滝
	苗場山の高層湿原
	上野原の風穴
	上野原の溶結凝灰岩の露頭
	鳥甲山の筋状地形
	屋敷の凝灰岩層
	夫婦滝
	切明温泉の源泉湧出点
	鬼沢火砕流の堆積物
	雑魚川の大滝(おおぜん)
エ コ	山伏山の風穴と周辺の植生・養蚕卵保管施設跡
	野々海湿原の生態
	見倉の風穴と周辺の植生
カルチャー	見倉のトチノキ原生林
	今井城跡
	見玉不動尊の境内地
	結束の石垣田
	苗場山頂の伊米神社

分 類	サ イ ト 名
ビューポイント	河岸段丘の展望台(空の展望台)
	河岸段丘と信濃川の展望台(川の展望台)
	さかえ倶楽部スキー場展望地
	ニュー・グリーンピア津南展望台(谷の展望台)
	前倉トド展望台(山の展望台)
	天池
	月夜立の見える展望地
文 化 財	上野大杉
	外丸矢放神社の八本杉
	正面ヶ原 D 遺跡
	沖ノ原遺跡
	船山神社の大櫓
	堂平遺跡
	矢櫃村跡
	甘酒村跡
	草津街道
	小赤沢のユモトマユミ
	苗場神社
	黒駒太子堂
	小赤沢かつら母神
	大秋山村跡
	長瀬新田遺跡
	常慶院
	仙当城跡
	阿部家



新ジオサイト「笹葉峰の大崩壊」